

なごや花のまちづくりネットワークだより

2021年度の活動報告（秋）

No.10

「秋の種まき講座」 開催日：9月9日（木）参加者：11名



冬春花壇を彩る「パンジー」題材に、育て方の講義と種まきの播き方の実技を行いました。品種は、青色のかわいい花が咲く【よく咲くスマレ“ブルーフィズ”】を使用しました。

今回の講義では、種まきの容器であるセルトレイを使用し、種まきの実技から植えつけまでを、このトレイで生育させる方法を講義にて伝えました。種まきでのポイントとしては、

- ①セルトレイに土を入れたら、ウォータースペースを作り、種まき前に土を湿らせておくこと
- ②パンジーは発芽に光が必要なので、種の上にかぶせる土（覆土）は、薄く、種が隠れる程度にすること
- ③発芽したタイミングで徐々に日を当てて育てること

実技では種まきをし、自宅でセルトレイに種まきをしてもらいました。参加者からは、「パンジーが好光種子だと知らず、厚く覆土をしていた。パンジーは薄めに覆土をします」、「大きなセルトレイでの種まきで、植付けまでこのまま育成するのは、ポット上げをしないで済むので楽でよいです」というお声をいただきました。

その後の参加者の声

今年は、9月になっても残暑が厳しく、発芽しているか、上手く成長しているか心配でしたが、参加者の方から「薄く覆土したら、しっかり発芽してくれました」「本葉も出てきて順調です」というお話が聞いて良かったです。



1か月後、本葉も4枚に！

「種だんごづくり」 開催日：10月11日（月）参加者：14名



秋まき春咲きの種を付ける「種だんごづくり」を行いました。

本来であればグループで和気あいあいと行いたかったのですが、コロナ対策により一人ずつでの作業となりました。

赤玉土とケト土と水を混ぜて、種だんごの生地を作りますが、水の量をちょっと多く入れてしまうだけで、トロトロの生地になってしまったり、慎重にちょっとずつ水を入れてもなかなか適度な柔らかさにならないと、種だんごの生地作りに苦戦していました。土をこねたり、丸めたりする作業を楽しんでもらえ、出来上がった「種だんご」は綺麗なチョコレート菓子のように見えました。

「種だんご」は、誰でも楽しくできるように、考えられています。活動団体や地域の方、家族の方と楽しく作って植え付けをするコミュニケーションの手段となるのも「種だんご」の魅力の一つです。

来春も春まき夏・秋咲きの種の「種だんご」づくりをしたいと計画中です！興味のある方は是非、ご参加ください。



約1週間ほどで芽がはじめてきました

参加者の声

- ・初めて作ったが、楽しかった
- ・お花が咲くのが楽しみ。今日中に植えつけます（※「種だんご」はその日のうちに植える）

花壇だより

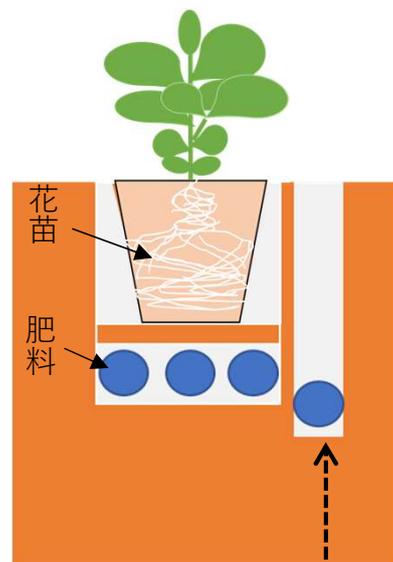
12月上旬までには冬花壇の植え付けをしましょう！

夏花壇を彩ってくれた植物も、見ごろを終えようとしています。植物は気温が下がると、根の成長も低下します。冬春花壇として植え付ける、ノースポールやパンジー・ビオラなどが、春先にも株が大きくなり花を付けてもらうためには、寒くなる前に根をしっかりと張らせることがポイントになってきますので、11月から、遅くとも12月上旬までには冬春花壇づくりをしましょう。

花苗を植え付けポイント ～植えるときに肥料を与える～

植付け手順（固形肥料の場合）

- ①花苗を植える穴をあける
- ②穴の底に肥料を入れる
- ③肥料が隠れる程度に土をかける
- ④花苗を植える



追肥のときも穴をあけて肥料を与える

★根は肥料がある方へ伸びていくので、根の張りが良くなる

★花苗が効率よく肥料成分を吸収できる

（※土壌表面にばらまくと、表層の方に根を張る雑草が肥料成分を吸収してしまう）

- ・球根を植える、球根も植える穴の底に肥料をいれます
- ・追肥についても、根の方へ肥料を与えるため、割りばしや支柱で穴をあけて肥料を与えます

冬の講習会のご案内

日にち	時間	講座	場所	申し込み 締め切り
12月16日（木）	10時～11時	押し花講座 クリスマスカード を作ろう！	鶴舞公園 緑化センター	* 11月30日（火）
2月中旬ごろ	10時～	交流会	鶴舞公園 緑化センター	-

※12月の講習会の申し込みなどの詳細は、「花ネット活動講習会 参加募集用紙」をご確認ください。

※2月の交流会について、後日ご案内をいたします。